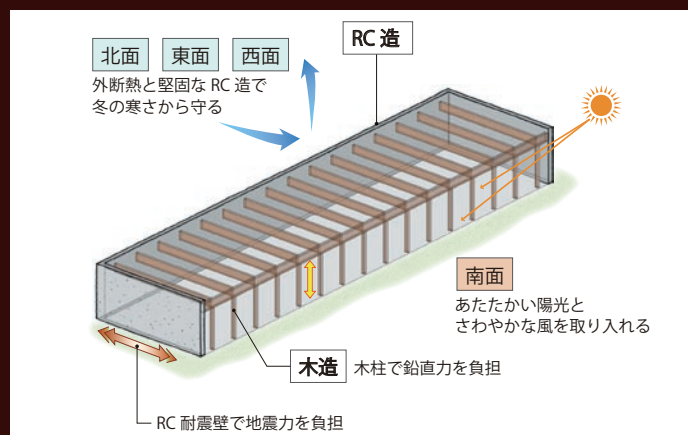


木を活かすエンジニアリング

耐火、環境など幅広い技術が木の特性を最大限に引き出します。

ハイブリット構造

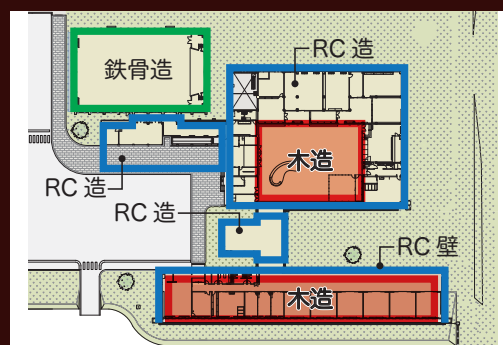
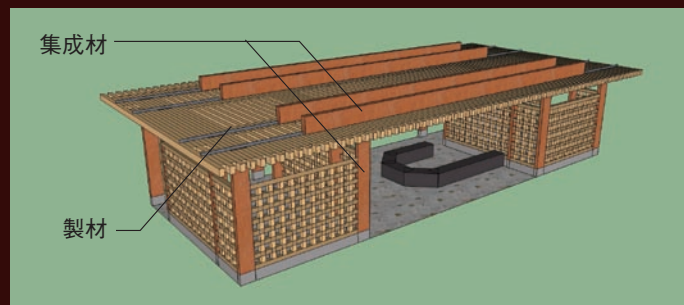
木の短所を RC 壁が補います



耐震壁を RC として屋根を木造とすることで、軽量化と高い耐震性能および耐久性能を確保しつつ、壁が少なく開口が大きい自由度の高い平面計画を可能にします。基礎・地業への負担も小さくすることができます。

耐火性能の確保

RC 造での区画、燃えしろ設計を行います



着火性のある木材ですが、建築規模・用途制限と設計上の配慮により、木造での設計が可能です。木造建物の RC 造での分けや、表面炭化による燃え止まりを活かした燃えしろ設計により、耐火性能を確保できます。

軽量化による地業のローコスト化

パイルドラフト基礎への木造の応用



軽量の木造建物は基礎や地業の負担を軽減し、軟弱地盤に効果は大きくなります。建物の軽量化は、パイルドラフト（沈下抑制杭併用基礎）や不同沈下対策としての木杭による地盤改良など、基礎・地業コストの削減を可能にします。

環境配慮材料

「木育」により循環型社会に貢献します



北海道は豊富な木材の流通、大きな敷地、低層建物など、木造建築を適用しやすい環境が整っています。木造建築の多様な可能性を示し、木造建築・林業・森林そして地球規模の環境配慮を身近に感じさせるきっかけとなる「木育」を行います。